

平成29年6月10日  
第425号

# 警察の異端児が今社長へ

## ハピネス(新潟市)の猪又勝 社長(75才)

### 派遣要員が400人も

「警察官上がりの社長がいるよ。会ってみないか」と勧める人がいた。

警察官と聞いて「？」と思った。役人の中で一番つぶしのきかないのが警察官。それが社長とは??これまで大西レポートに登場した420人の経営者の中で警察官出身は1人もいない。俄然、興味がわいた。

この人、新潟市愛宕で人材派遣業をやっている「ハピネス」の猪又勝社長(75才)という。さっそく会社を訪問した。すると猪又社長、明るくて大きな声で「待ってました。さあさあどうぞ」と大歓迎なのである。「おいこら調」の警察官を想像していたので面くらってしまった。

ハピネスの仕事の内容を聞いて再び面くらった。警察業務とはまるで縁がない仕事ばかりなのである。

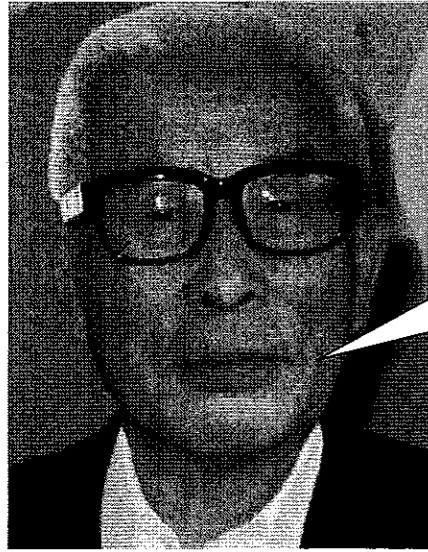
ホテルなどへコンパニオンを派遣する人材派遣業。人材紹介業。ペンションを2軒、カフェバーを5軒、リラクゼーションを5軒、たこ焼き店、ちよい飲み店などを持つ。サービス業のオンパレードだ。ハピネスの創業者、高橋靖顧問(45才)に請われて猪又さんが社長に就任したのが9年前、現在、社員が50人、派遣要員が400人、年商5億1300万円となった。

「75才にもなつて若い人向けのサービス業は荷が重いのでは?」と聞いたら

「イヤ、若手の社員がやっていますから。私は経理とか資金繰りといった後方部門です」とのこと。なるほど。それなら。

### 警察ひと筋47年

猪又さんは糸魚川高校を卒業後、18才で新潟県警察学校に入り、59才で退職するまでずっと警察畑を歩いてきた。この間、加茂警察署長、柏崎警察署長、新潟東警察署長、さらには新潟県警の生活安全部長を歴任。警察ひと筋の人生だった。



えっ?異端児?  
結構結構

だが若い時から言うこと、やることおおよそ警察官らしくなく、警察官の異端児と言われるてきたそう。

例えば相川警察署長の時、地元からトライアスロンの国際大会をやりたいという要望がきた。前任者は「危険が多い」として許可しなかったが、猪又さんは「地域起こしのためだやろう」と決断した。何かあれば「俺が責任をとる」と腹をくくったのである。それが今や参加者2000人を超える佐渡一番のイベントとなった。

柏崎署長時代、地元の人と一緒にあって1000万円の募金集めに奔走したこともあった。警察仲間から「金集めまでやるなんてあいつ気が狂っているんじゃないか」と批判されたそう。

保身や失敗を恐れる役人の世界にあつて猪又さんは「地域の人喜んでくれるなら」の姿勢を貫いてきた。だから「警察官の異端児だ。変わり者だ」と言われても本人はまるで気にしない。腹をくくっているからであろう。

定年後は第二の職場がない警察官が多い中で猪又さんは75才になつてもまだ仕事がある。あるどころか社員50人の社長である。

### 生涯現役

人間、年とつてくると体力が弱り、友人が減り、孤独になっていく。最悪はボケ、寝たきりである。それを防ぐにはまず生きがいを持つこと。生きがいの最もたるものは働くことである。

が、悲しいかな65才以上の日本人で働いている人はたった13%に過ぎないという統計がある。猪又さんは59才で退職後、損害保険料率算出機構に6年間勤め、66才の時に今のハピネスの社長に就任した。翌年には行政書士の資格をとり、今年5月には新潟県行政書士会新潟支部長に就任した。警察官の異端児が定年後に花開いたのである。生きがいの前提となる健康面にも努力している。

会社へは毎日10時に出社、午後2時頃になると近くのトレーニング施設「新潟テルサ」へ行って約2時間、汗を流す。ベルトウォーキングを30分、ストレッチ体操を30分、サウナで1時間、帰宅すると必ず晩酌する。身長168cm、体重75kg。至って健康。

75才の今も年賀状は500枚ほど書く。年賀状に書く台詞がふるっている。「生涯現役。ピンピンコロリだ。座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」ではなく、「天命を信じて人事を尽くす」ときた。

「一生懸命やれば必ず誰かが助けてくれる」と言った。